



すべての子供が幸せになる学校

校長 森田 康之

年末に、次期学習指導要領(2030年度予定)についての報告が文部科学省からありました。今日はその中の資料と12月の学校だよりで書いた内容を合わせたものをお読みいただきたいと思います。

～ 学校の多様性とは ～

学校に限らずあらゆるところで、“多様性(ダイバーシティ)”について語られています。

わたしが、はじめて“ダイバーシティ”という単語を耳にしたのは2010年頃だったように覚えています。お台場の埋め立て地に「ダイバーシティ東京」というとても広い商業施設ができると聞いたのが初めてだったと思います。そのとき、“ダイバーシティ”ってなんだと思って調べたことを覚えています。

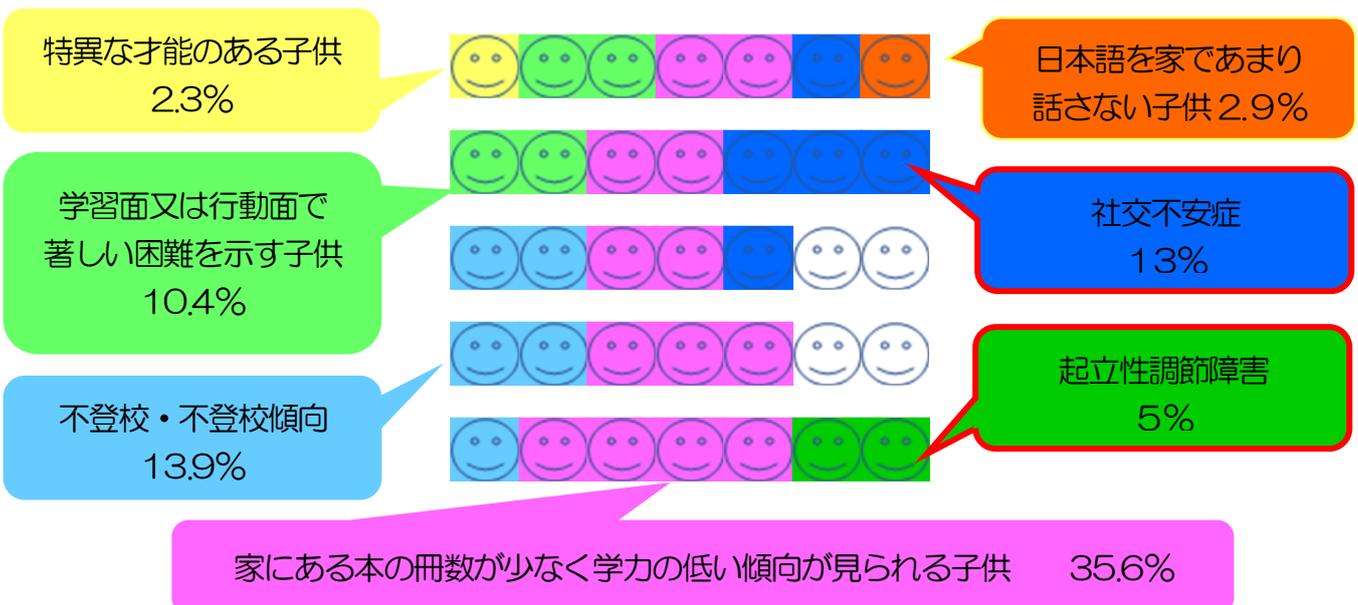
多摩市も推進しているSDGsの中にも、“多様性”は生物多様性や文化多様性等、何度も出てきます。

学校現場は、もともと多様性が尊重される場所だったと思うのですが、LGBTQをはじめ、性の多様性が学校現場でも話題に挙がるようになりました。また、そもそもひとクラスに35人の子供がいるのだからそれだけで多様な子供がいると言われることがあります。

たしかに、人が35人いても、同じ人はいないので、多様と言えるかもしれません。

しかし、そんな大雑把な捉えではなく、資料に基づいて、学校における“多様性”について考えてみます。

小学校35人学級における多様性



- ① 特異な才能のある子供(2.3%)
特定分野に特異な才能のある児童生徒は、その才能や認知・発達の特性等がゆえに、学習上・学校生活上の困難を抱えることがあると指摘されています。
- ② 学習面又は行動面で著しい困難を示す子供(10.4%)
学習面で著しい困難を示す児童生徒(6.5%)
行動面で著しい困難を示す児童生徒(4.7%)
学習面と行動面ともに著しい困難を示す児童生徒(2.3%)
- ③ 不登校(2.1%)・不登校傾向(11.8%)
小・中学校の不登校児童生徒数は11年連続で増加し、全国で約34万6千人
- ④ 家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供(35.6%)
家にある本の冊数が少ない → 家にある本が0~25冊
- ⑤ 日本語を家であまり話さない子供(2.9%)
在留外国人等の増加が続く中、家で日本語をあまり話さない子供はクラスに1人存在すると言われている。

ここまでが、文科省の資料からの引用です。

そして、社交不安症(13%)と起立性調節障害(5%)は、12月の学校だよりで紹介した小中学生時代に表れやすい症状です。これに上で話題にした性の多様性を加えると、日本人の性的マイノリティが8%とされているので、そのまま35人学級に当てはめると約3人という計算になります。この3人を上の図に加えると、色のつかない子供は一人ということになります。

実際は、一人でいくつもの傾向に当てはまる子もいますので、いくつもの色が重なる子がいることになります。文科省が挙げた5つとわたしが挙げた3つのほかに、虐待やヤングケアラーといった課題に直面している子供もいます。

これが、学校の多様性です。